

高松市立木太南小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

志をもち、楽しく豊かな学びのなかで、
心身ともにたくましく生きる子どもの育成

【本校の課題】

- 男女とも、多くの種目で県・全国平均を上回っているが、反復横跳びとソフトボール投げ、シャトルランにおいて、県平均を下回る学年が多くあり、また反復横跳びは近年3年間ともに下回っている。
- スポーツ少年団等に参加している児童とそうでない児童との運動経験の差が大きく、運動に対する意欲と能力の二極化が目立つ。
- 在宅時間が長くなったことで、運動時間が減少している児童も多い。

【現状】

休み時間等には元気よく運動場で遊んでいる姿が見られる一方、教室や図書室で友だちと話している児童も多く、二極化している。また、多くの子どもたちはボールを使った遊び（ドッジボールやハンドベースボールなど）をすることが多く、遊具などで遊ぶ姿は少ない。

体育の授業においては、全校生の人数の関係で、体育館を使用する時間が決まっており、体育館での単元を通しての学習が難しい。

【取り組み】

カードや掲示を使っての意欲付け

新体力テストの上位者の結果を掲示したり、鉄棒検定表、持久走カードなどを作成したりすることで、友だちと競い合ったり、昨年度の自分と比べたりしながら取り組めるようにする。また、賞状を渡すことで意欲を高められるようにする。



オリパラ教育の充実

各学年で「I'm possible」を活用して、オリ競技だけでなく、パラ競技に挑戦したり調べ学習をしたりして、オリンピック・パラリンピックへの興味関心を持てるようにする。



体力アップタイム

体育授業の開始5分間を使って、運動場や体育館を走ったり、連続馬跳びや長なわとび、キャッチボール、遊具を使ってのサーキットトレーニング等の運動を行ったりすることで、基礎体力、持久力、筋力、敏捷性を高められるようにする。

体育委員会による運動講座

体育委員が昼休みになわとび、鉄棒などの運動講座を行い、技の手本を見せたり、練習時間に参加者に鉄棒グッズを使ってアドバイスをしたりして、楽しみながら取り組めるようにする。



木太南なわとびカップ

技や回数によって初級・中級・上級コースを設定し、できた技に自分の名前シールを貼っていく。低・中・高学年ごとにシールの色を決め、1・2年生は初級、3・4年生は中級、5・6年生は上級からスタートするが、1～4年生は、飛び級できるようにする。その一覧表を全校生が見られるところに掲示することで、意欲を高められるようにする。



【目標】

- R4年度までに新体力テストの全種目で、全国平均より上を目指す。
- 様々な運動を紹介し、家庭でも取り組めるような活動と呼びかける。
- オリパラ学習を通して、色々な運動に興味をもったり、意欲的に取り組んだりしようとする児童を育成する。